

荒田校区コミュニティプラン

第2期(令和7年度～令和11年度)

校区振興計画



あたたかく
心ふれあう三方限のまち
あらた



荒田校区コミュニティ協議会



第2期コミュニティプランの策定にあたって

荒田校区コミュニティ協議会会長 鮫島 宗一郎



日頃よりコミュニティ協議会の活動へのご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

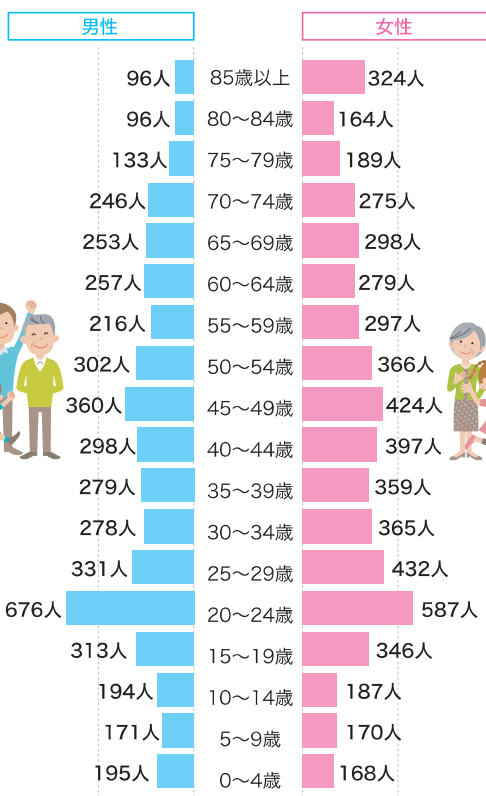
協議会は平成29年度に設立し、令和2年度から6年度、第一期コミュニティプランに基づき、『住みよい快適なまち・あらたづくり』を進めて参りました。その間はコロナ禍に翻弄され、相次いで行事が中止となり、活動が制限されました。そのため、校区の皆様は協議会の存在、活動、役割をお伝え出来なかったと感じておりました。また、発足して間もなく、まだ定着していなかった協議会のあり方を見直す期間でもありました。コロナ禍が開け、行事が再開でき協議会のことを知っていただく機会も増えました。さらに、構成団体の皆様との意見交換会等を通してご意見、ご要望を伺うことができました。校区の事業者と連携という新しい取り組みも始まりました。このような中、多くの方々のご尽力、ご協力により第2期プランを策定いたしました。皆様とともに心ふれあうまちづくりを進めて参りたいと思います。

今後ともご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

I 荒田校区の今

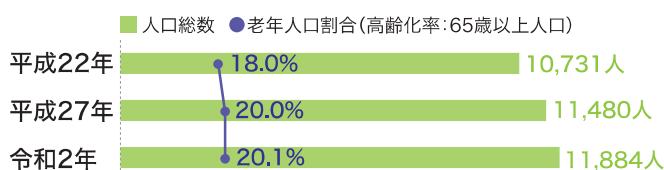
1 年代別の人口構成

(令和2年) ※国勢調査を基に作成



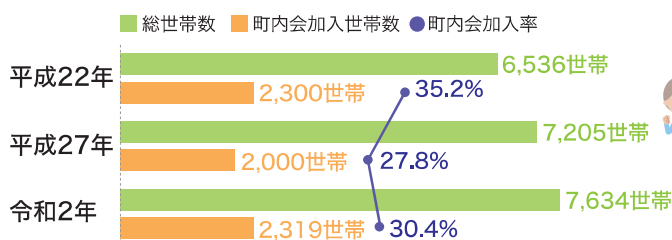
2 人口・高齢化率の推移

※国勢調査を基に作成



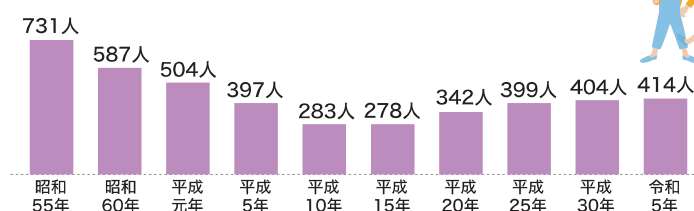
3 総世帯数と町内会加入率の推移

※国勢調査を基に作成



4 荒田小児童数の推移

※鹿児島市の教育を基に作成



荒田校区は、生活環境や交通環境などが整い利便性の高い住みよい地域で、転入世帯に好まれる傾向にあり、校区全体の世帯数・人口はともに増加を続け、荒田小学校の児童数も増加傾向にあります。

一方、町内会加入率は鹿児島市全体の割合(令和2年・52.8%)よりも低く、若干の回復は見られるものの、減少傾向にあります。

また、鹿児島市全体の人口構成比と比較して、荒田校区の年少人口(0～14歳)及び高齢人口(65歳以上)は低く、生産年齢人口(15～64歳)が高いことが特徴と言えます。

5 荒田校区の紹介

明治22年の市制施行時、旧城下47町に荒田・塩屋・西田の3村を加え鹿児島市が発足しました。甲突川右岸のこの地は当時「三方限(さんぼうぎり)」と呼ばれ、下級武士の集落が広がり、川向の加治屋町とともに多くの逸材が育った地として有名でした。甲南中学校正門(当時)脇に建つ「三方限出身名士顕彰碑」は幕末・明治期に活躍したそれらの人々を敬い昭和10年に建てられました。また、荒田小学校・甲南中学校の校歌に「三方限」を詠い歴史を後世に語り継いでいます。

幕末期445世帯余だったこの地域は、現在、多くのマンションや大学、生涯学習施設(サンエール)や医療・商業複合施設(キラメキテラス)等をもつ文教・商業・交通の各面での市内中心地域となって発展しています。

鹿児島市立荒田小学校校歌

作詞・作曲 三界実義

歴史の夢は今もなお 三方限(さんぼうぎり)の碑に刻む
祖先の遺業受け継いで わたしもあなたも励みましょう
その名も荒田 わが母校

鹿児島市立甲南中学校校歌

作詞・蓑手重則 作曲・有馬大五郎

英俊雲と生(あ)れつぎて 維新の業をなしとげし
三方限(さんぼうぎり)の名も永遠(とわ)に
共同自治の風かおる 中学甲南若人われら

II 荒田校区が目指すまちづくり



1 目標(スローガン)

あたたかく 心ふれあう三方限のまち あらた

2 目標設定の理由

①「あたたかいまち」にするため

地域住民のつながりを大切にし、共に支えあう地域づくりを目指す。

②「心ふれあうまち」にするため

行事を通じて人が集い、心のふれあうまちづくりを目指す。

③「三方限」の気風を受け継ぐため

「三方限」に象徴される歴史と伝統のある地域であり、自分も他人も大切にする風土づくりを目指す。

3 運営方針

- ① 「暮らしつつけたい荒田」を目指して、地域づくりを行う。
- ② 地域のふれあい・つながりを通して、心豊かなまちづくりを目指す。
- ③ 福祉・防災活動を推進して、安心・安全な地域づくりと共助の体制づくりを行う。
- ④ 町内会など構成団体及び関係行政機関との連携を図る。
- ⑤ 様々な媒体を利用した情報発信・共有に努める。

Ⅲ 第1期の振り返り(成果と課題等)



全体

- 第1期前半は、新型コロナの影響で思うように活動ができなかったが、後半にかけては創意工夫をこらしてコロナ禍でもできる行事内容にシフトし活動しました。
- 各部会では部会長を中心に円滑な運営ができましたが、部会長(一部個人)への負担が大きく、後継者不足にもつながっています。
- コミュニティ協議会の存在や役割が地域住民に十分浸透しているとは言えず、理解や関心を深める工夫が必要です。
- 活動や計画の広報が、町内会の回覧板や荒田小学校児童への案内配布だけでは地域住民に行き届かないため、配布業者の活用やお店等への掲示依頼をすることで幅広く広報できました。

まちづくり部会

構成団体によるあいさつ運動や環境美化活動、交通安全・防犯活動などはもとより、部会を中心に関係団体と連携して防災活動に取り組み、地域住民の防災意識の醸成を図ってまいりました。また、コミュニティ通信の定期的な発行を継続し、計画や活動の広報にも取り組みました。一方、より多くの幅広い年齢層の地域住民の関与・参画を促進するための取組や広報が課題となっています。

健康福祉部会

地域住民の健康増進を図るため、構成団体と連携しながらスポーツ行事の企画運営や健康教室などを開催しました。高齢者福祉、児童福祉を充実するために見守り活動・子育て支援活動・福祉に関する学習・世代間交流なども行いました。子育て、独居世帯の関わりの中で町内の繋がりを作るための取組が課題となっています。

青少年育成部会

青少年育成のために、世代を超え「心がふれあう」ための機会作りを主活動としていますが、人々が集うことを許されない期間を経験し、校区文化祭や伝統継承活動の新たな開催方法を模索しました。ただ、制限が多く、全ての地域の方々が満足できる活動にはなりません。特に、伝統継承に関する行事にはふれあいを大切にしつつ、新しい創意工夫が求められています。



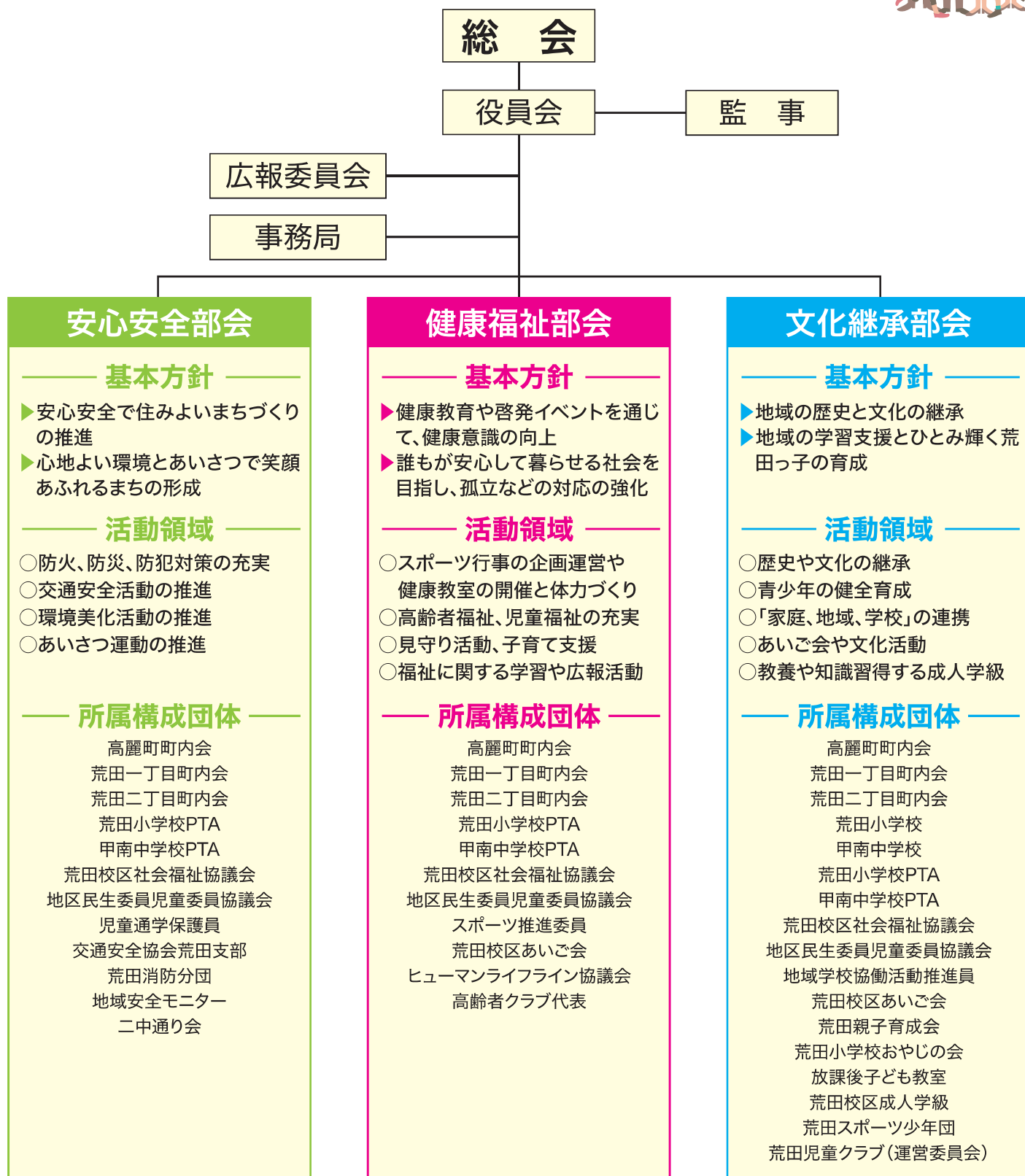
Ⅳ 部会名変更と組織構成の見直し

部会名変更

- 「まちづくり部会」から「安心安全部会」に変更。
- 「青少年育成部会」から「文化継承部会」に変更。

広報委員会の新設

- これまでの広報活動では地域住民に情報が十分に浸透しているとは言えないため、広報誌の拡充やSNSによる情報発信、またLINE等を活用した情報共有により、協議会の活動や事業の理解を深め、地域の情報を共有し、地域住民が積極的にまちづくりに参加できるように情報を発信します。



安心安全部会



番号	事業名	内 容	関連団体	開催時期
1	あいさつ運動 【ふれあい活動】	「あいさつ先手運動」を展開し、あいさつがあふれる地域づくりを進め、地域で共に支えあう「結い」の意識を醸成する。	・児童通学保護員 ・荒田小学校PTA ・甲南中学校PTA ・町内会	学期初め
2	清掃美化活動 【地域環境の美化・保全活動】	環境美化活動に取り組み、美しい環境づくりと町内会活動の活性化を図る。	・町内会 ・地区民生委員児童委員協議会 ・二中通り会	月1回
3	防災活動 【防災活動の推進】	避難所運営マニュアルや危険箇所・ハザードマップの作成に取り組むとともに、実効性を高めるための防災活動を行い、各種災害に備える。	・ヒューマンライフライン協議会 ・荒田消防分団 ・町内会 ・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会	随時
4	防犯・環境点検 【校区環境点検活動】	空き家や空き地、人目につかない場所等の点検活動を行い、青少年の健全育成や校区の犯罪防止を図る。	・町内会	随時
5	防犯活動 【防犯活動の推進】	関係団体と連携した活動を行い、犯罪のない明るく住みやすいまちを目指す。	・地域安全モニター ・町内会	随時
6	交通安全活動 【交通安全活動の推進】	ゾーン30指定区域等の交通事故防止啓発活動を行い、交通事故ゼロを目指す。	・スクールゾーン委員会 ・荒田小学校PTA ・甲南中学校PTA ・交通安全協会荒田支部 ・地域安全モニター ・児童通学保護員 ・町内会	随時
7	下校見守り・街頭補導 【学校教育支援活動】	小・中学生の下校時における見守りや街頭補導などの非行防止活動等に取り組む、青少年の健全育成及び事故・犯罪防止を図る。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会 ・町内会 ・荒田小学校PTA ・甲南中学校PTA	随時

健康福祉部会



番号	事業名	内 容	関連団体	開催時期
1	見守り活動 (ふれあい活動) 【高齢者福祉の推進活動】	高齢者等への声かけで支え合う地域づくりを進め、隣近所への声かけでつながりを深め、お互いを支え合う意識を育てる。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会	随時
2	子育て相談活動 【児童福祉・子育て支援活動】	子育てに対する不安や悩みなどを話し合う場(子育てサロン)を設け、悩みや不安を軽減するとともに、交流を図る。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会	年10回
3	介護講習会 【福祉に関する学習】	介護講習会を実施し、住民の介護に対する関心の高揚を図るとともに、介護の方法や心構え等について知識を深める。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会	年1回
4	社協だよりの発行 【福祉に関する広報】	福祉活動を住民に知らせ、福祉施設や福祉関係の活動団体等の情報を得ることができ、福祉に対する関心を高める。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会	年2回

番号	事業名	内 容	関連団体	開催時期
5	スポーツイベント 【スポーツ行事の企画・開催】	各世代の住民が集い、スポーツ等を開催し楽しむことで、体力づくりへの意識化を図るとともに、住民の心の交流を図る。	・スポーツ推進委員	年1回
6	世代間ふれあい交流 【世代間交流活動】	七夕の時期に集うことで、ふれあい交流を行い、住民の親睦を深め、絆を強くするとともに、地域の活性化につなげる。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会 ・荒田小学校PTA	7月
7	健康・体力づくり講座 【スポーツ推進委員との連携】	健康・体力づくり講座を実施し、住民の健康・体力づくりへの関心や実践意欲を高め、住民どうしの親睦を深める。	・ヒューマンライフライン協議会	年5回
8	福祉に関する調査 【福祉に関する支援】	一人暮らし高齢者、障害者等の福祉支援を行い、校区内の福祉環境の整備を行うことで、福祉意識の高揚を図る。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会	随時

文化継承部会



番号	事業名	内 容	関連団体	開催時期
1	校区文化祭 【文化行事の企画・開催】	社会学級や自主学習グループ、学校等の学習活動の成果を発表・参観することで、校区の文化の向上と豊かな心が育つふるさとづくりを図る。	・荒田小学校PTA ・甲南中学校PTA ・荒田親子育成会 ・荒田校区あいご会	10月
2	青少年健全育成大会 【地域一体の青少年育成活動】	青少年の健全育成に向けた話し合いを行い、日頃の見守り活動に発展させ、次代を担う青少年を校区民全体で見守る態勢づくりを図る。		年1回
3	しめ縄作り・もちつき大会 【世代間交流活動】	しめ縄作りやもちつきを行い、正月行事の伝統に触れるとともに、地域の活性化につなげる。	・荒田校区社会福祉協議会 ・地区民生委員児童委員協議会 ・荒田小学校PTA ・荒田親子育成会	12月
4	歩こう会 【あいご会等の活動支援】	親子・地域住民で名所等を歩くことで、地域の文化・歴史などを一層知ることができ、健康づくりにも役立てる。	・荒田校区あいご会	年3回
5	三方限出身名士慰霊祭 【伝統行事の継承】	三方限出身名士の遺徳に触れる慰霊祭を行い、郷土の歴史を学びながら、郷土出身の名士を偲び、郷土への愛着を深める。	・町内会 ・(共研舎)	8月
6	はまなげ 【伝統行事継承】	郷土に伝わる昔の遊び「はまなげ」を地域の方々に教わりながら体験することによって、異年齢での遊びのよさや工夫を知り、郷土に対する理解を深める。	・荒田小学校	1月
7	社会学級の開設 【生きがいづくりの学習】	成人学級を開設し、教養の向上を図り、日常的な課題について学びあうことで、まちづくりや家庭生活に役立つ力の向上と活気ある地域づくりを図る。	・荒田校区成人学級	年6～8回



令和6年度 プラン策定委員会名簿

役 職	氏 名	協議会役職・構成団体
委員長	鮫島 宗一郎	会長
副委員長	海江田 悦郎	副会長 高麗町町内会
副委員長	黒木 克宣	副会長 荒田一丁目町内会
副委員長	佐藤 辭	副会長 荒田二丁目町内会
委員	黒岩 賢彦	まちづくり部会長
委員	和田 麻美	健康福祉部会長 甲南中学校PTA
委員	今富 学	青少年育成部会長
委員	田中 千草	書記
委員	竹下 公博	荒田小学校
委員	岩脇 勝広	甲南中学校
委員	宇都 ようこ	荒田小学校PTA
委員	田之上 齊	地域学校協働活動推進員
委員	今吉 悦朗	荒田校区社会福祉協議会
委員	中間 さよ子	荒田地区民生委員児童委員協議会
委員	穂満 昌吾	荒田校区あいご会
委員	中山 綾乃	荒田小学校家庭教育学級
委員	矢島 康宏	荒田親子育成会

役 職	氏 名	協議会役職・構成団体
委員	原口 透	荒田小学校おやじの会
委員	川上 豊	スポーツ推進委員
委員	尾上 道雄	地域安全モニター
委員	弥栄 泰広	荒田消防分団
委員	恵 茂之	児童通学保護員
委員	鈴山 秀則	荒田児童クラブ(運営委員会)
委員	平川 忠久	放課後子ども教室
委員	茶園 浩一	荒田ハスポーツ少年団
委員	増田 勝彦	警察青少年ボランティア連絡協議会
委員	永井 美由紀	ヒューマンライフライン協議会
委員	瀬戸山 保広	ヒューマンライフライン協議会
委員	松島 広典	ヒューマンライフライン協議会
委員	渡辺 純子	ヒューマンライフライン協議会
委員	大迫 尚仁	ヒューマンライフライン協議会
委員	徳永 陽子	ヒューマンライフライン協議会
委員	平山 祥子	事務局職員
委員	大脇 麻記子	事務局職員

荒田校区マップ



荒田校区コミュニティ協議会

〒890-0054 鹿児島市荒田一丁目30-27(荒田校区公民館内)
TEL/FAX : 099-297-5808 E-mail : arata-comyu@po5.synapse.ne.jp